

--	--

議 事 録

会 議 名	第7回 杉並区児童館等のあり方検討会	
日 時	平成18年6月12日(月) 19時00分～20時50分	
場 所	杉並区役所 第9会議室	
出席者	委 員	増山会長、菅原委員、川村委員、能登山委員、野田委員、花井委員、吉開委員、中井委員、仁比委員、上原委員、加藤委員、重藤委員
	事 務 局	[教育委員会事務局] 松岡庶務課長、吉田学校適正配置担当課長 [児童館] 岡崎成田西児童館主査、大浦堀ノ内東児童館主事、島田下井草児童館主事、畠山和泉児童館主事 [児童青少年課] 白垣児童青少年課長、小林康夫計画調整担当係長、林田管理係主査、横関児童館運営係主査、小林武彦事業係主査、土田管理係主事
傍聴者	5名	
配付資料	事 前	1 第6回検討会議事録
	当 日	1 会議次第 2 小学生の居場所づくり等を検討する上での視点について(資料25) 3 児童館・学童クラブにおける子どもの育成について(資料26) 4 第7回児童館等のあり方検討会資料(教育委員会事務局)(資料27) 5 杉並区教育ビジョン【冊子】(資料27-2) 6 未来を育む(第16回、第17回)(資料27-3) 7 すぎなみ地域大学について(資料28) 8 すぎなみ地域大学【冊子】(資料28-2) 9 他自治体の児童館の協働化の実施状況について(資料29)
会議次第	1 開会挨拶 2 第6回議事録について 3 資料説明 4 議題 5 その他	
発 言 者	発 言 内 容	
1 開会		
会 長	《開会挨拶》	
2 第6回議事録について		
会 長	議事録は既にお手元に届いていると思いますので、ご確認をお願いいたします。若干手直しがあるようですので説明をお願いします。	
児童青少年課長	既にお送りしました議事録9頁一番下の委員ご発言の、一行目後段「強化学習」とありますが「教科学習」に訂正をお願いします。それから、10頁の会長のご発言の、下から10行目「学校なので取り組む場合は」を「学校などで取り組む場合は」に訂正をお願いいたします。	
会 長	以上2ヶ所訂正ということですが、その他お気づきの点はありますか。	
	《特になし》	
会 長	では、議事録を確定いたします。	

3 資料説明	
会 長	<p>今回は特に、ニーズに応じた特色ある児童館づくりという議題について、かなり突っ込んだ議論を行いました。また、文部科学省から「放課後子どもプラン」という「地域子ども教室」事業と「放課後児童健全育成」事業を統合するというようなプランが出されています。また、杉並区が「教育立区」という大きな目標を掲げているということも重なって、教育・学校の間と児童館・学童保育の違いを捕らえながら、どのような連携が出来るのかということについても議論しました。</p> <p>今回は、前回の課題を引き継いでもう少し議論を深めて行きたいと思います。そういう意味では、この検討会の天王山というか核心に触れる議論の時間ではないかと思えます。</p> <p>前回の論議の中で、「教育立区」との関わりで教育委員会サイドにもいくつかの課題を提起させていただきましたので、それらについて新たな資料、あるいは問題を整理した提起というものがあると思います。前回から新たに加わっている課題としては「協働等のあり方について」ですが、その他の課題は、前回の議論の発展としての宿題に関わるものです。</p> <p>今日もたくさんの資料が用意されていますので、全てご説明いただいて、まとめて議論の時間をつくるようにしたいと思います。ではお願いします。</p>
児童青少年課 長	《資料25、26について説明》
庶務課 長	《資料27、27-2、27-3について説明》
児童青少年課 長	《資料28、28-2、29について説明》
4 議題	
会 長	<p>この検討会を振り返ってみると、学校と児童館・学童の関わり方は、空きスペースがあるかないかということから出発しましたが、この間の「放課後プラン」のおかげというべきか、あるいは「教育立区」問題などとの関連で、教育サイドの問題と児童館・学童の問題が本格的に議論できる機会がつけられました。単に空きスペースをどう使うかという玉突きのような議論ではなく、本質的な議論をしてみてもどうかと思います。</p> <p>前回の議事録をお読みいただければわかるように、また参加された方はご記憶にあると思いますが、かなり突っ込んだ論点が出ています。一つは「学び」というのは一体何なのだろうかということ。どちらかということも学校教育の専売特許のようなものでもありますが、児童館・学童でも「学び」の捉え方の問題があるけれども、かなりの「学び」があるということでした。この「学び」の問題が論点になりました。</p> <p>もう一つは「意図的・計画的」というのは何なのかということも議論になりました。教育委員会から「ただ預かっているだけで良いのでしょうか」という問いかけに対して、今日配布された資料26では、「児童館・学童保育には運営指針というものがあり、年間のプログラムもあり、各児童館・クラブごとに丁寧につくっています」ということが反論として示されました。これは一言で言えば、これほど「意図的・計画的」なものはないということだと思います。</p> <p>一方では「地域子ども教室」という居場所事業というものがあり、「すぎっ子クラブ」を始めとする貴重な取組みがあります。これらの中身については必ずしもどういう中身なのか知られていません。知っている方は知っているとは思いますが、児童館・学童サイドからは少なくとも分かっていないようです。</p> <p>そういう点では、「杉並区教育ビジョン」と併せて「未来を育む」という細かい資料が出されていますので、この部分が教育委員会サイドの「意図的・計画的」な「学び」の一つの姿ということだと思います。</p> <p>こうした資料に基づいて、また、今日配布されたばかりですので、なかなか読み込めていないということもありますし、質問もあろうかと思えますので、両サイド</p>

	<p>から自由に質問をしたり補足をしたりしながら、教育委員会でまとめていただいた資料27の2項目目にあるように「教育と福祉という枠組みを越えて、事業を構築していく時期にきていると考える。子どもの育成をどのように考えていくか、子どもをどのように伸ばしていくのかという共通の視点に立って、どちらかに事業を吸収・合併するのではなく、新しい事業像をつくる」という未来志向で、かなり詰めた議論をしていく必要があると思います。</p> <p>これは、子どもたちが杉並で生まれ育っていくときに、どういう環境を整えて行けば良いのかというビジョンを持つということでしょう。それは恐らく「教育立区」という視点からも必要なことであるし、教育の中身をどのように捉え・膨らませていくのかということにもつながっていくと思いますし、児童館・学童クラブのあり方につながっていくと思います。</p> <p>そのようなことから、今日はかなり本質的な議論が出来ると思います。そのため資料も揃っています。ここから先は、皆さんで率直に議論を展開していただければと思います。</p>
委員	<p>資料26についてですが、非常に詳しく児童館と学童クラブの活動内容が掲載されています。それこそ「学び」が行われていると感心しております。「培われる力」というものが「学び」であるように思います。この資料には小学生に対応した方針が記載されていますけれども、中学生とか高校生、就学前の方たちに対してもこういう方針・プログラムがあるのでしょうか。</p>
児童青少年課長	<p>若干違った形になりますけれども、対象ごとに児童館として意図している「培われる力」というものはございます。</p>
委員	<p>職員の役割・対応のところは全てに関わることだと思いますが、中高生・就学前も含めて拝見したいと思いますのでお願いします。</p> <p>素朴な質問があります。もしかしたら前回議論があったかもしれませんが、資料27の1項目の「地域子ども教室」事業における「学び」というところで、ここで捉えられている「学び」というものの中身というか定義というものは、どういうものなのか教えていただきたいのが一点です。</p> <p>それから資料27-2「杉並区教育ビジョン」の中で、恐らく5頁のところ「目指す子ども像」ということだろうと思いますが、「学力・体力の向上を図るとともに、豊かな人間性を育てます」ということが具体的な目標でよろしいでしょうか。</p> <p>そのあたりの補足説明をお願いいたします。</p>
庶務課長	<p>まず一点目でございますが、「地域子ども教室推進」事業は昨年度、17拠点で行われていまして、それぞれの拠点において活動内容は様々です。多少温度差がありますけれども、例えば体験的な活動を非常に重視しているところもあれば、また一方では、英語学習のようなものを導入しているところもあります。</p> <p>その中の一つの例としまして、資料27-3「未来を育む」というものをお示ししましたが、それぞれの拠点で活動している範囲で、一定の成果をあげていると教育委員会では判断しております。</p> <p>ただ、この事業は教育委員会で直接所管をしておりません。実行委員会方式という形で、それぞれの地域で実行委員会を組織していただいて実施しています。国から都を経由して活動資金が来るわけですが、その監査という形で教育委員会が関与しているというのが現状です。その範囲内で知り得た情報の中では、一定の成果を得ていると評価をしているところです。</p> <p>二点目の「杉並区教育ビジョン」に関わるご質問ですが、先ほど5頁ではないかというお話がありましたが、私どもは3頁の一番冒頭にあるように、「杉並の目指す教育」の基本的な考え方は、まず、どういう子どもをこれから育てていくのかということで四点を挙げまして、現在、幼稚園も含めて学校教育においてはこのようなことを第一義的に目標として、それぞれの教育活動を展開しているところでございます。</p>
委員	<p>もう一度確認ですが「学び」の定義というか、何を「学び」と捉えるかは、それぞれの実行委員会できりと自由に発想しているということでしょうか。体験学習に</p>

	<p>についても「学び」というように捉えているということでもよろしいでしょうか。</p>
庶務課長	<p>はい。「学び」というものは広義で捉えております。例えばスポーツを通じて習得する技術であるとか、あるいは子どもたちとの関わり方、友だちとの付き合い方、集団グループでの生活など、全てを包めて「学び」と捉えております。</p>
会長	<p>さらにご質問もあるかと思いますが、今のご質問がある意味単刀直入であり、前回の議論とのつながりもあると思います。私ももう少し補足してご質問してみたいと思います。</p> <p>前回議論になった論点に、「学び」・「意図的・計画的」というキーワードがあったわけですが、教育委員会が「教育立区」構想の視点から『児童館・学童について、「意図的・計画的」という点ではどうでしょうか?』というような問いかけから始まりました。キツイ言い方をしてしまえば、「少し乱暴な問いかけに過ぎないか」ということを心配していました。</p> <p>つまり、その「学び」という中身をどう捉えるかということもありますし、児童館・学童クラブが「意図的・計画的」でないと捉えてしまっているとすれば、学童・児童館の実態についての理解が、まだ行き届いていないのではないかという心配をいたしました。</p> <p>逆に、今日配布された資料26によると、児童館・学童クラブの子どもの育成には、運営方針があり、そこに「培われる力」、職員の役割・対応、取組みの具体的な内容があり、各児童館ごとに計画が立てられているということが分かりました。それでも、なお「意図的・計画的」でないと捉えるのかどうかという質問が一つあります。</p> <p>それから、資料27の1項目『「地域子ども教室」事業における「学び」、子どもの居場所としての意味』ということで、「すぎっ子クラブ」などについては、後でもう少し丁寧に、資料27-3「未来を育む」に沿ってご説明をいただきたいと思います。</p> <p>また「地域子ども教室」事業は、一定の評価ができるという説明がありましたが、評価の視点というのはどういうものなのかということをご説明いただきたい。つまり、評価できるというからには評価の視点があるはずです。こういう取組みが評価できるという、何をもちょう評価しているのかについて、「すぎっ子クラブ」についてでも結構ですし、実行委員会方式でそれぞれ進めているわけですから教育委員会としては直接タッチはしていないでしょうけれども、実行委員会のところでどういう視点を出しているのかを含めてお聞かせいただくと、資料26「児童館・学童クラブにおける子どもの育成について」の「培われる力」の評価をする場合に、大いに役立つのではないかと思います。</p> <p>資料26「児童館・学童クラブにおける子どもの育成について」については、「培われる力」について書いてありますが、杉並区の子どもの像である、資料27-2「杉並区教育ビジョン」の3頁「杉並区の目指す教育」、これらをつき合わせてみた場合に矛盾があるのか、ないのか。どこが違うのか。そのあたりをつき合わせる必要があると思います。</p> <p>こちらの「杉並区教育ビジョン」は抽象度が高い訳ですが、児童館・学童の方はさらに具体的な取組み・内容と関わって、こうしたものがつくられている訳ですから、そういう点でつき合わせた方が良いと思います。どちらが良いとか悪いとかと言う訳ではなく、教育委員会サイドで取り組まれている「地域子ども教室」事業の内容と、児童館・学童保育のこれまでの蓄積を、双方で見つめ合って煮詰めていく良い機会だと思います。そういう点でご質問を付け加えておきます。</p>
庶務課長	<p>資料26の児童館・学童クラブの運営方針は、まさに「意図的・計画的」なものになっていると拝見しております。恐らく、教育委員会が所管している部分と、もし差があるとすれば、評価の部分であるとか、どういう風に子どもを育成して行くかとか、どういう子どもを伸ばして行くかという目標みたいなもの、教育の場合はやや抽象的というご指摘もありましたが、先ほど申し上げましたように、一つの理想像・生徒像というものを目指して、それに対して教育活動を推進していくという</p>

	<p>考え方を取っていますので、そのあたりは恐らく児童館サイドの方にもあるとは思いますが、それがより鮮明に表れると良いのではないかという印象を持ちました。</p> <p>それから「地域子ども教室」の評価の視点ということですが、実際に何ヶ所かの拠点を見て子どもの姿と言いましょか、活動に参加している子どもの姿の中からの評価。もう一つは、東京都が「地域子ども教室推進」事業について昨年12月に実行委員会を対象としたアンケート調査を行いました。その中に散発的ではありますが、子どもの様子についてということで「自発性が身に付いてきている」、「協調性が出てきた」、「異年齢集団の中で活動しているうちに自己表現力が上がってきた」というような調査結果がでていいますので、そのあたりから一定の成果を上げているのではないかと考えた次第です。</p> <p>「杉並区教育ビジョン」については、確かにこの文言だけでは非常に抽象的ですが、これを受けて各学校がそれぞれの教育課程を編成して、具体的な取組みを行っています。</p>
会 長	<p>資料26の宮前児童館の運営方針に基づく取組みと計画と同じようなものが「杉並区教育ビジョン」に則して、各学校で具体的なものとしてつくられているということです。そのレベルで煮詰めていかないと解りにくいと思います。いずれにしても、今日の議論の切り口のところではそこまでしておきましょう。</p> <p>前回の議事録との関わりで言うと、10頁の下段「児童館・学童クラブでは何か目標を決めてそこに向けて子どもを育てていくというよりは、子ども自身の自主性・自発性を大切にしながら、そういう形で自発的姿勢を育てていく」という発言がありましたので、そういうことも念頭におきながら議論を深めて行きたいと思えます。</p> <p>資料27-3「未来を育む」の「すぎっ子クラブ」が取り組んでいる中身も魅力的というか興味があるところです。この資料についてのご説明はどうですか。</p>
庶務課長	<p>先ほど申しあげましたように、私どもが直接所管しているものではないので、なかなか実態というものを皆様にお伝え難かった訳ですが、この資料は、遊びの中でもやはり集団のルールを重視する記載が何ヶ所か良く表現されていましたので、参考にお配りしたものです。</p>
委 員	<p>「地域子ども教室」事業は一定の成果が上がっていると評価できるというようなお話でしたが、今配られた資料27-3「未来を育む」をざっと見ただけなのでよく分からないので、掻い摘んでお話いただければと思います。</p>
庶務課長	<p>こちらの「すぎっ子クラブ」に関して申し上げますと、月曜日から金曜日までのウィークデイの活動が他の拠点に比べて開催日数が多いです。その中で遊びの部分と、こちらの資料で何ヶ所か出てきますが、集団のルールを非常に重視していたり、一部英語教室を実施していたり、子どもたちが自発的に宿題をやるという件もあります。さまざまな活動が、もちろん実行委員会がプログラミングした中で子どもたちが活動しているものもあれば、子どもたちの方から自発的に活動しているものもあります。その中で一定の成果を上げていると判断した訳でございます。</p>
委 員	<p>先ほど評価をするというのは、「目指す人間像」に近づけているというのが評価というようにおっしゃってましたよね。</p>
庶務課長	<p>学校教育の場合はそうなります。ただ、この「地域子ども教室推進」事業は、そこまで目指す子ども像というものを掲げて「こういう子どもにするためにこういう活動をする」という形では恐らく実施していないと思います。その活動を通じて子どもたちが参加したり、さまざまな他の人たちと関わる中で成長していくという部分を評価というように考えております。</p> <p>先ほど私が申しあげた評価というのは、いわゆる学校教育の範疇での評価というものそういうものですよというご説明を申しあげたまでです。</p>
委 員	<p>それが児童館・学童クラブには「ない」のではないかということですか。</p>
庶務課長	<p>「ない」というようには申しあげておりませんが、この児童館の運営方針の中にそういう要素が見える形だと、よりわかり易いのではないかと申しあげたまでです。</p>

<p>会 長</p>	<p>私が先ほど申しあげましたように、前回のご発言がかなり乱暴ではないかと思われました。資料に基づいていないのではないかと。今日、資料27という形で教育委員会から考え方が示されました。われわれは資料に基づいて議論すべきだと思いますので、この「未来を育む」というものが「地域子ども教室」事業として非常に「学び」として重要であるものとするれば、この「学び」というのはどういうものであって、「教育立区」の観点から「杉並区教育ビジョン」の3頁なりの目指す目標と、どのようにつながっていくのかということを引きちんと説明していただかないと理解し難いと思います。</p> <p>逆に言えば資料26「児童館・学童クラブにおける子どもの育成について」を見ると「培われる力」が書かれています。かえって杉並区を目指す教育・子ども像に結果として繋がるのではないかと思います。例えば「教育ビジョン」の「郷土を愛し、自分のまちに誇りをもてる人」ということも、資料26によると「異世代交流」というようなことで取り組まれていますね。目標としては掲げないかもしれませんが、結果として杉並の目指す教育に繋がっていくということも考えられるので、そういうところが今日の資料に基づいて、疑問として出されるのは当然かなと思います。</p> <p>そうすると、場所のあるなしの議論ではなくて、中身をどのようにつくっていくのかということが必要です。これは資料27に出されているように、子どもの育成をどのように考えていくのかという未来志向で両者を詰めていくということをしなないと、ただ、物理的に同じ場所につくれば良いということではありません。</p> <p>「地域子ども教室」事業のうち「すぎっ子クラブ」については年間多くの日数を活動していますが、その他の拠点は必ずしも多くはありません。そういうことを考えると児童館・学童保育は、休みはありますけれども毎日のようにやっています。そういうことを考えると実態としてどうするかということもありますし、目標に向かっていく進め方としての違い、あるいは慣例というものも丁寧に煮詰めていかないといけないと思います。</p> <p>そういう点では、前回と繋がって資料が出されましたので、是非、率直に煮詰め合うと良いと思います。学童・児童館の資料26などについても、この点は充分なのではないか、もっとこういうやり方があるのではないかというようなことも、当然必要だと思います。そういう点での中身に立ち入った議論をしておきたいと思えます。</p>
<p>委 員</p>	<p>意見ではなく教えていただきたいと思えます。情報がたくさんあり混乱していますが、「すぎっ子クラブ」に代表される「居場所づくり」事業の考え方は、対象者を限定していますか。例えば就業している保護者であるとか。</p>
<p>委 員</p>	<p>その学校に通う子どもというのがあります。</p>
<p>委 員</p>	<p>それはそうですね。例えば学童クラブは基本的に働いているご家庭を支援するというのが第一義です。生活というのが下地にありますけれども。この「すぎっ子クラブ」は入るための条件はありますか。</p>
<p>庶務課長</p>	<p>ないですね。</p>
<p>児童青少年課長</p>	<p>ただ、「すぎっ子クラブ」に関して言えば、学童クラブに通っている子は対象外です。</p>
<p>委 員</p>	<p>それははっきり明示されているのですか。</p>
<p>児童青少年課長</p>	<p>学童クラブと「すぎっ子クラブ」に両方登録することは出来ない聞いております。</p>
<p>委 員</p>	<p>他の拠点の居場所事業においては、学童クラブの子どもも登録できる場所もあります。</p>
<p>児童青少年課長</p>	<p>「すぎっ子クラブ」に関しては住み分けをしているということです。</p>
<p>会 長</p>	<p>「地域子ども教室」事業は実行委員会方式ですから、その実行委員会の方針によって、いろいろバリエーションがあるということですね。</p>

委員	<p>先ほど、延長線上の目標として「良い効果です」とおっしゃった、例えば「毎日やっていることとか、勉強する時間もあり、遊ぶ時間もある」というのを聞くと、だんだん学童クラブになっていく気がしないでもありません。</p> <p>杉並第一小学校の学区域内に存在する学童クラブと「すぎっ子クラブ」の中で、お互いのやり方としてのすり合わせであるとか、効果であるとかを議論された経緯はありますか。</p>
児童青少年課長	<p>直接学童クラブと「すぎっ子クラブ」の間で、現在やられているかということになると恐らくそういうことはないと思います。立ち上げのときに学童の方からすれば、子どもを取られてしまうのではないかという危惧はあったようです。日常的に情報交換をして実施しているかということ、特にそういうことはありません。</p>
委員	<p>以前にいただいた居場所事業の資料によりますと、今後の課題として「近隣の児童館等との緊密な連携づくり」ということが目立つところとして上がっていますので、今後すり合わせも考えて行く方向に向かうのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>決してそれはお互いに「パー」にするものではないと理解して良いのですか。このケースにしても。</p>
委員	<p>ちょっと良いですか。私は杉並第六小学校の「居場所づくり」事業を実施することについて相談を受けました。校長先生から、前任の学校で居場所事業を始めたときは、「すぎっ子クラブ」のように、学童クラブの子どもは初めから登録外だったので、クラブの保護者の方から「どうして参加できないのか」というような声があったということです。</p> <p>前任の松ノ木小学校で居場所事業を始めた校長先生が、杉並第六小学校に異動されてきて、昨年、居場所事業を開始するときに学童クラブ登録児童を居場所事業の対象に入れることについてどう思うかということの相談が児童館にありました。</p> <p>子どもは学童クラブだけが居場所ではないので、居場所事業も放課後の選択肢として保護者の方が利用したいという考え方であれば、登録しても良いのではないかというお返事をしました。杉並第六小学校の場合は、月曜日と金曜日の放課後に居場所事業を実施しているので、「学童クラブに行くのか居場所事業に行くのか子どもが分からなくならないように、保護者の方に居場所と学童クラブは違うということを充分説明して理解していただいた上で、協力してもらってください」ということをお願いしました。</p> <p>その居場所事業は青少年委員の方が中心に運営しています。そこからは登録児童の名簿も連絡先もいただいています。例えば学童クラブに来ていなくて居場所に行っているかもしれない子どもがいる場合は、すぐ連絡をとりあうようにしています。かなり混乱はありますが連絡を取り合いながらやっています。</p> <p>プログラムについてはなかなか厳しいということなので、児童館からもいろいろな遊具やプログラムなどのご相談も受けています。プログラム提供もしては良いのではないかとということで、6月には居場所に出向いて行って、工作指導を児童館の職員が初めて実施する予定です。</p>
会長	<p>児童館・学童クラブについては資料が多く出されていますのでそれらを見ながら振り返ることが出来ますが、「地域子ども教室」事業については資料12の別紙として一覧表がありましたけれども、それからもう一歩進んだ「未来を育む」のような、それぞれの拠点で実施されている事業の中身などについてまとめているものはありますか。</p> <p>つまりそれぞれの「地域子ども教室」が、子どもの登録はどうしているのかなども含めて児童館との関係はどうしているか、詳しくまとめたものはありますか。</p>
庶務課長	<p>教育委員会としてはそこまで把握はしておりません。</p>
会長	<p>そうすると実行委員会が把握しているわけですね。</p>
庶務課長	<p>もちろん実行委員会は把握していますが、冒頭でも申し上げましたとおり、拠点によって取り組む内容や活動日数等々、非常に差がございますので、一律に同じ形で比較検討はできないというのが実態でございます。</p>

委員	むしろ「地域子ども教室」事業の方は、それぞれの実行委員会は方針を持っているけれども、全体としての方針は特に「ない」ということですか。それぞれが考えて良いということですので。教育委員会でつくっているとか、どこかでつくっていることはないわけですね。
庶務課長	教育委員会から何か指導助言をしているということはありません。
委員	「地域子ども教室」は居場所としてまず始まったということなので、そういうものは「ない」ということですね。
会長	<p>文部科学省は「地域子ども教室」事業つまり居場所と、それから「放課後児童健全育成」事業を一体化するという方向を出して、教育委員会の主導で実施するという大きな方針を打ち出しました。つまり教育と福祉がバラバラではなくて、子どもの生活・成長発達にとってどういうことをすれば良いのかを考えていこうというのは、非常に意味があることだと思います。</p> <p>ただ、実態として「地域子ども教室」事業と「放課後児童健全育成」事業が一体化するという事はそう簡単なことではなく、機械的に考えられないというのがはっきりしてきたと思います。</p> <p>そこから先はもう少し中身を議論したいと思います。いま子どもたちにとってどういうことが必要なのかということ。学童クラブと「地域子ども教室」両方に登録しているところもあります。子どもが学童クラブに来ていない場合は、「地域子ども教室」事業の方に行っているかもしれないし、そうでないかもしれない。そうすると、子どもの状況をつかまないといけないわけですね。</p>
委員	<p>学童クラブに出席予定で帰ってこない子の場合は、保護者全員に連絡をとっています。杉並第六小学校の「地域子ども教室」は「かしのきキッズ」といいますが、1年生が帰ってこないで電話をしてみたらそちらに行っていたという事がわかりました。</p> <p>「かしのきキッズ」は自宅に保護者がいる場合は全員お迎えに来てもらっています。学童クラブの場合はお迎えに行けないので、保護者の方に連絡を取り、「かしのきキッズ」の方と相談をしていただきました。何時にそちらを「出す」という連絡を入れてもらい、児童館では帰ってきたのを確認しました。</p>
会長	かなり大変ですね。
委員	はい。
会長	子どもにとって居場所の選択肢が増えたことは非常に良いことですが、管理というか子どもをきちんとケアしていくということから見れば、仕事が複雑になるという形になるわけですね。
委員	<p>「子ども教室」のスタッフの方たちが大変だなと思うのは、いろいろ喧嘩やトラブルがあった場合に、スーパーバイズする人がいないということで、それを児童館に来て職員にご相談しているということがあります。子どもたちは学童クラブと重なっていますので、喧嘩をしたり怪我をさせたりしたときの対応は、両者の保護者に連絡を取りあうようにアドバイスしています。なかなかその辺が上手く行かずに困っているようです。</p> <p>もう一つ、スタッフの成り手が居ないということです。「地域子ども教室」は便利な一時預りの場と捉えている方が多く、本来でしたら子どもを通わせる側が、次の年はスタッフになって子どもを見て欲しいというのがあると思います。スタッフの方は、青少年委員の方や母親クラブの方が子どもたちのために善意でやっていらっしゃると思いますが、なかなかそれが一般の方々に広がらないのは、大変だと言っていました。</p>
委員	<p>児童館全体が蓄えてきた経験などが広がるというか、そちらの方に流れていくというようになって行くと思いますが、その広がりつつあるところに乱れが生じた場合に、どうするのかということがあると思います。</p> <p>もう一つ、学童クラブは毎日行くわけですが、「地域子ども教室」は選べるというところがかなり違うと思います。最終的な責任は「地域子ども教室」の場合は家</p>

	庭であり、学童クラブの場合は学童クラブということだと思います。
委 員	<p>「地域子ども教室」事業はまだ始まったばかりなので、水を差すのも良くないことだと思いますが、立ち位置をはっきりさせておいた方が良いと思います。将来的に両方が育って何かの形で連携して融合していくというのは非常に望ましいことだと思いますが、この居場所づくりで生まれているいろいろな事業が、一貫性が無く責任の所在がはっきりしない。また一時的な設立時のパワーに依存してしまっているというように感じます。もう一つは善意のある、恐らくお母さんが中心の組織でしようから、どうしても人に依存した部分が多くて、組織としての位置付けというか「自分たちはこうである」というところが、例えば館が運営している児童館の骨子のかけ方と比べてしまうと、非常に不安定な気がします。</p> <p>例えばやっているお母さんたちも地域で長く力を出してきた人たちだと思いますが、逆にそうしたところでのギクシャクした偏りがあると見受けられそうな気がします。教育委員会では今後どのようにフォローしていこうとしているのかという意見を知りたいところです。</p>
庶務課長	<p>「地域子ども教室推進」事業は、ご案内のとおり三ヵ年計画ですので、今年度をもって国からの委託金も終了します。いま私どもとしては、先ほどからいくつか話題に出ております「すぎっ子クラブ」等を中心に、地域から芽生えている一つの良い形の活動というように評価していますから、やはり何らかの形で継続していきたいと考えております。</p> <p>「放課後子どもプラン」という話が今般急に出てきましたので、それとの関係が今後どうなるかということは、先ほど資料にお示ししましたけれども、東京都が各市町村に調査を行っていて、各都道府県が調査を何らかの結果をまとめていると思います。そのあたりの動向を見ながら、より良く継続できるように考えていきたいと思っています。</p>
委 員	<p>「地域子ども教室」事業の裏づけは、三年間予算が出るので行政としても保障があり、今後はこれから考えていきたいということですが、私も地域活動に携わっていて実際の経験から、行政の裏づけがないと継続性がないし、力も温存できないということを感じます。</p> <p>教育委員会の場合「教育立区」の方針が、学校教育としてはとっても素晴らしいとは思いますが、地域活動に関しては、今のお話のとおり非常に地域性を大事にするということも重要ですが、そこをきちんとサポートするという形が出来ていないので、その制度の期間終了とともに力が落ちていってしまい、萎んでいってしまう気がします。</p>
委 員	<p>先ほど、『学童クラブと「地域子ども教室」の両方を選べて、居場所のバリエーションが広がって』というお話がありましたが、もともと居場所事業を開始することになったのは、学童クラブと児童館が学校から遠く、そこに子どもがいる場所がないから居場所事業ができた学校が多いわけですね。また「すぎっ子クラブ」は、主に活動していただいている教育コーディネーターの方が大変お力のある方なので、引っ張って行くリーダーとして盛況になったと思います。</p> <p>どこの地域でも居場所が必要です。三谷小学校の「三谷放課後そてっクラブ」というのは、学童を出た子どもたちの居場所として始めたと聞いています。子どもの居場所がないからとりあえず作ろうということで作っているの、強力なリーダーシップというものが地域の中から出てきにくい状況で、そういうリーダーシップがないと長く続いたり、あるいは大きな目標とか理想像を組み立て、構築していく方向にはなかなか行かないと思います。</p> <p>とりあえず居場所として始まったということが、現場のお話を聞いて痛感するところです。</p>
会 長	<p>そうすると今まで学童クラブの弱い地域があつて、その新しい「地域子ども教室」事業で、少し埋められたわけですね。</p>
委 員	<p>学童クラブがもう少し学校の近くにあつたら、ここまで居場所事業の拠点は増えなかったと、この居場所を実施している12校にお話全部伺いましてそう思いまし</p>

	た。
会 長	理念的には「地域子ども教室」事業は、学童のような保育ニーズといたしますか、学童のようなニーズでない子どもたちも対象ですね。つまり遊びなり子どもの集団なりをつくること。
委 員	児童館に行く代わりに、ここの居場所に行く子どもたちもいると思います。
会 長	そうすると身近な場所にそういうのがあれば、子どもたちは選択しますよね。
委 員	安全面を考えても、学校を遊ばせる場所として提供するというものですから。
会 長	「地域子ども教室」事業がたとえ三カ年であろうと、その後そのようなものが継続してその地域にあるというのは必要、望ましいということですね。
委 員	学校の校庭が使えるというのは子どもにとって魅力だと思います。児童館は屋内の遊び場ですので、なかなか思いっきり遊べない部分があります。公園とか外遊びができる場所が少なくなっている中で、学校の校庭というのは外遊びできる場所でたいへん魅力だと思います。プログラムがそんなに無くても校庭が使えると子どもたちは喜んで遊ぶと思います。
会 長	<p>地域性というもの一つあるだろうし、もう一つご議論いただきたいのは、子どもが生まれて育っていく時に、乳幼児期は当然ながら保育所がないとどうにもなりません。小学校低学年の学童保育も同じです。でも三・四年生ぐらいになるとかなり生活も落ち着いてきて、仲間との交遊も広がるから、学童だけに居たくない、他に行ってみたいという冒険心もあるのではないのでしょうか。例えば広い校庭に行ってみただとか、他のお友だちとの生活に興味があるなど、生活圏を拡大していく年齢になります。</p> <p>そうすると「学童保育」か「地域子ども教室」というのではなく、年齢なり、子どもが「教育立区」が目指す教育目標にあるような力を培っていくうえで、そういう場が多様にあって、子どもが選んでいけるようなことを考えてみないといけないと思います。</p> <p>そのあたりを考えると、先ほど両方に登録している子どもが、今どこにいるかということで、職員の方は心配だけど、子どもにとっては大人に面倒くさい心配をしてもらいながら、あっちに行ったりこっちに行ったりということが不可欠ではないかと思います。そういう育ち方が子どもではないかと思います。そこで事故などがあると立ちどころに責任問題になってしまいますけれども。</p> <p>学年から見て一年生と三・四年生を見た場合には、学校の校庭に遊びに行くのはやはり高学年の子どもでしょうか。</p>
委 員	<p>杉並第六小学校対象の高円寺南学童クラブでは、登録児童数は71人です。高学年は狭い児童館のスペースでは遊べないので、校庭開放の日は校庭で遊んでから帰ってくるというように、保護者の了解を取ってやっています。また、小さい公園がありますので、三年生以上は自由外出という形で保護者から一筆いただく形で、何人かで集まって公園に遊びに行っています。</p> <p>エネルギーが有り余っているようです。</p>
会 長	<p>そのエネルギーは大切にしないといけません。囲ってそこにいれば安全ということでは、「教育立区」や「杉並区教育ビジョン」に沿う子どもにはとうてい近づいて育ちそうにはないので、管理的には大変かもしれませんが、そういう目で見てもらいながら子どもが色々な所にはみ出していくということはあると思います。</p> <p>その場合に「地域子ども教室」など選択肢がたくさんあるということは恐らく必要なことだと思います。</p>
委 員	スタッフの問題ですね。
会 長	<p>そうするとスタッフ問題と関わって、今日のもう一つ大きな議題「区民との協働、NPOの専門性」と関わらせながら、スタッフ問題に論点を移して行きましょうか。</p> <p>これからこうした「すぎなみ地域大学」などで、スタッフ養成、専門性を高めていくための講座「地域で子育て支援コース」などが開設しておりますから、恐らく</p>

	こうしたメンバーが増えていくのではないかと思いますし、専門団体というかNPOなどが、どんどん力を蓄積していくのではないかと思います。
児童青少年課 長	<p>少し「すぎなみ地域大学」について補足説明をしたいと思います。先ほど、「地域で子育て支援コース」30名定員に対して34名の応募があると申し上げましたが、その内訳ですが、中には既にNPO法人に所属していて、スキルアップを図りたいという目的で応募してきている方も数名いらっしゃいます。</p> <p>また、そういう法人には所属していないけれども、昔幼稚園とか保育園の先生をやっていて、子育てのために一旦リタイアしたけれども、それが一段落したのでまた自分の資格を何らかの形で役立てたい方が結構いらっしゃるというように聞いております。</p>
委 員	この「すぎなみ地域大学」の事務局を見ると、杉並区区民生活部というところが管轄しているようですが、こういう人材を育てるということであれば、教育委員会なり児童青少年課がある一定の目指す方向性「こういう人材を育てて欲しい」ということのすり合わせがあっても良さそうな気がします、そのあたりはいかがでしょう。
児童青少年課 長	<p>この講座のプログラムを策定する際には、それぞれの関係する所管には、どういうプログラム構成にして誰を講師にしたら良いのか、どのくらいの時間数が必要なのか、体験学習は必要なのかということについて、相談がありました。それを受けて構築したものがこれになります。</p> <p>当然このプログラムも出だしはこれですが、実施してみて、それぞれの地域活動の場も年を経れば増えて行くかもしれませんし、そういう状況を受けてまた改善していくという形になろうかと思います。</p>
会 長	資料28-2中綴4・5頁の「地域で子育て支援コース」のプログラムにはかなりいろいろなものが盛り込まれていますけれども、何か一つの事業ものというものではない訳ですね。
児童青少年課 長	今のところ、かなり総花的な形にはなっています。
会 長	いろいろなニーズに応えられるということですね。
児童青少年課 長	そうですね。今後また、行政としてのこの受皿づくりが急務であるということになれば、例えば児童館・学童クラブコースというように、もう少し特化したコースができてくる可能性もあります。
会 長	前回の議論では、ファミリー・サポート・センターの必要性が、学童保育の時間延長や年末運営と関わって出ましたが、そういうところにもう少し人的サービスを紹介する必要があるということが出されました。そういうものの人材を、例えば個人から養成するとか、あるいは今日出ている「地域子ども教室」もそうですし、そういうものが意識的に入れられていくということが、今後必要だと思います。
委 員	<p>この検討会として、こういったものを求めていくというか、こちら側のニーズとしてそういう人材が必要な場合に、働きかけていくような積極的な提言があっても良いのかなと思います。</p> <p>「地域で子育て支援コース」のテーマを拝見したところ、小さい就学前のお子さんの子育て支援が中心になっているので、児童館で実際に動ける人たちを意識して、テーマを考えていくこともあると思います。</p>
会 長	<p>今日も先ほど議論したような「地域子ども教室」事業と「児童館・学童」が内容を煮詰めながら、相互に関連した取組みを進めていくとすれば、それをサポートしたり、そのスタッフになったりする人材を大量に養成しないと持たないわけですから、区で地域大学の中身もかなり絞られていくと思います。今の段階では、広く一般的なテーマになっていますね。</p> <p>報告書の中で、区民との協働の関わりで「すぎなみ地域大学」への期待は必要かもしれません。</p>
委 員	質問ですが先ほど委員がおっしゃったように、この検討会での話し合いがこういう杉並区の動きに対して、一つの形に持って行って欲しいという要望を出すことは

	<p>できますでしょうか。例えば、こういう試みでかなり勉強している方もいらっしゃいますし、実際に活動されている方も今までもかなりもいました。</p> <p>資料28-2の4頁の「終了後は？」というところには、かなり抽象的なものしか並べられていないので、せっかくここで学んでも「私はこういうことをやりたいけれども、それをどういう風に活用していったら良いでしょうか」と卒業された方はそこを迷われると思います。</p> <p>この検討会で「こういう人材にかなり期待する」ということで、システム的に養成して欲しいというような意見を提出することはできないのでしょうか。</p>
会 長	<p>それはもちろんできると思いますよ。そのためにこの検討会を行なっているわけですから、こういう課題がありますというように意見は出せると思います。</p> <p>ただ、恐らく「すぎなみ地域大学」は、そういう課題を受け止めることもあるでしょうけど、「地域大学」としての一般的な課題もあるわけですから、そういうものをスタンスの中でどのようにするのかということだと思います。</p> <p>それが緊急に、杉並の子どもの居場所づくりなり、あるいは放課後の子どもたちの生活の場にとって、スタッフの養成が必要だということになれば、実施するという判断になるのではないのでしょうか。</p>
委 員	<p>今まで話し合った中で、行政だけでなく区民との協働という形で人材が必要で、そういう方向に持っていくことが大事だということがある程度話に出ているので、この検討会としては、いろいろな形で人材を求めて、協働の仕組みを作るといような話し合いをしたいと希望を持っています。</p>
会 長	<p>ご意見として論点提起しておきたいと思います。</p>
委 員	<p>「居場所づくり」と学童クラブというのは、似たようなところがあると思いますが、実際には「すぎっ子クラブ」のようにずっとやっているところはほとんどないわけですね。後は単発的にボランティアでやっていて、最低の必要経費は予算を費やしてやっているの、それと学童クラブを一緒にしてしまうと意味合いが違ってしまふと思います。</p> <p>ただ、これからは学校統廃合という傾向は多くなるわけだから、それにどうやって対応していくかということになると、それぞれの分野に別れるのではなく、それを一つに統合すれば、もう少し機能的に使えるような気がします。教育委員会で居場所事業は始まり、学童クラブは児童館から始まりました。そういう分野の中で予算割しているため、実際に使うとなると上手に活用できていない気がします。</p> <p>言葉的には「居場所づくり」、「ボランティア精神」など格好が良いですが、どこも青少年育成委員が中心になっているところが多いと思います。どこも単発的に実施しているだけで、その時間だけやっていますよというだけで、正式な「居場所づくり」になっているとは思いません。現状は言葉の格好は良いけれど、子どもたちは「必ずそこに行かない」という場所ではないですね。</p> <p>学童クラブは毎日の時間帯実施していますから、子どもが安心して行けると思えます。学童クラブと「居場所づくり」事業がもう少し連携を取るための提案をしたら良いと思います。専門的な職員を派遣するとか。それと場所の問題ですね。先ほど他の委員からご発言がありましたが、学校だと校庭などの広い場所で遊ぶ、教室も利用できたりしますが、学童クラブの場合は児童館の中で遊んでいるというのがあります。そういうことを考えると、学校の中に移すのが良いのかなと思います。</p> <p>ただ、現実には学校は手一杯で、手が回せませんというのが現状だと思います。そうはいつても「居場所づくり」を実施しているので、やり方によっては何とかできるのではないかと思います。そこが問題になっているところだと思います。</p> <p>お互いに格好良いことを言っているかもしれない訳で、どこかで痛み分けしていかないと、もし実施するのであれば区役所からの予算等で具体的なことになるかと思えます。</p>
委 員	<p>素朴な疑問ですが、以前にお話があったと思いますが、保護者は学童保育と保育園が一緒のような感覚だと思います。保育園は厚生労働省の管轄で、幼稚園は文部科学省ですので、要領があって指針があり全く違うものになります。学童保育はど</p>

	<p>ちらの管轄ですか。</p>
児童青少年課長	<p>学童保育の根拠は児童福祉法になります。国で言えば厚生労働省、区で言えば保健福祉部で保育園と同じ管轄になります。</p>
委員	<p>前回、「放課後子どもプラン」の詳細は8月まで待つて下さいといわれて、すごく気になっていますが、今日の話聞いていてお互いが歩み寄ってという話がありましたが、幼保一元という話も出ていて、そういう中で果たして全く違う教育と保育の分野が、ミックスジュースのように綺麗になるのかと思いました。</p> <p>また、この「すぎなみ地域大学」は私自身非常に興味がありまして、就学の仕組みというところは良くわかりましたが、その後が本当に「ない」と思いました。先ほど別の委員が発言なさいましたが、「終了後は？」というところを読むと「各自それぞれがやってください」というように捉えました。</p> <p>せっかくこんなに素敵な企画があるにも関わらず、そういうのを踏まえて「放課後子どもプラン」に向かって議論が進んでいくであろうと思うので、そういう方々に区として何かそういう場を紹介するなどできないのかなと思います。</p> <p>今までの話を聞きながら、全く違う分野と分野をくっつけるというのは、本当に大変なことだと思います。ですので、どちらが管轄しているのか確認した訳です。</p>
委員	<p>「放課後子どもプラン」にかなり鮮明に現れていますが、「放課後子どもプラン」が出された背景としては、事務当局がどう考えているかわかりませんが、少なくとも大臣の発言から見れば、一つは全国的に押し並べてのお話を国は考えますから、2万3千の小学校区に対して、いま1万5千ぐらいしか「放課後健全育成」事業、いわゆる学童クラブがありません。それを一つには一挙に整備したいというのが大きな眼目としてあることは間違いないと思います。</p> <p>そのときに杉並区を見れば、とりあえず学童クラブは、各小学校区にあるという状況です。これも押し並べてのお話で、実際は先ほど他の委員がおっしゃったように、学校の近くに無くて、だからこそ「地域子ども教室」が立ち上がったところもあります。その問題は考えていかなければなりません、とりあえずは各小学校区に学童クラブがあるという状況です。その中身を考えていかないといけないと思います。</p> <p>いま、教育委員会から前回・今回と一つの投げかけがあったことは確かですが、恐らく「教育ビジョン」という理念と「育成方針」という理念をぶつけてみても、現場での話にはならなくて、学校現場では学童の活動に対して、「もう少しこうしてもらえないか」というご意見があると思います。一方学童クラブの方でも、学校内や学校敷地内にあるところでは、「もう少し学校運営に対してこうしていただけないか」というのがあると思います。</p> <p>そこのところがまず接点になって、話し合っていくことから少し開けてくるのかなと思います。そのあたりから両者の内容を少し近づけていくことができるのではないかと考えています。現実的にはそういうことから始めて、とりあえず数は押し並べて言えば、国が意図するような数はあるわけですから、その中身で「教育立区」という理念にしたがった各学校の運営から見て、もう少し学童が現実的にお手伝いというか、やっていけることもあるのかなと思います。そのあたりが一番現実的なところだと思います。</p> <p>協働の問題については、そうした議論をしていく中で「地域子ども教室」は現にボランティアに近い形で立ち上げているわけですから、そういう動きというものが広がっていくのか、行かないのか。あるいは広がっていくについてもどういう枠組みで、きちんと下支えするようないかならないといけないということが容易に想像できますので、そのあたりの議論をしていながら、学童と児童館の運営の中にそういう協働という形で、同意をすることができるのかという議論が必要だと思います。</p>
会長	<p>いまのご発言が大体これまでの議論とこれからの道筋が示されていると思います。文部科学省がこの間、出してきていることにあまり振り回されることはなくて良いと思います。それはそれとして。ただ、そこで出されている重要なことは、学</p>

	<p>校と児童館・保育所・学童などの福祉が、どう結合して新しいビジョンを描くかという課題が出されていると思います。「放課後児童健全育成」事業がないところは、その方針によって一気に増えてそれで良いと思いますけど、杉並のように日本一児童館が多くて学童保育もその中に組み込まれていて、あるいは学校の中の学童保育も含めて、普及しているところはもう少し先の議論をしていかないとまずいと思います。</p> <p>そういう点では「教育立区」という考え方は非常に貴重でして、先ほど教育委員会の方が言われたように、一つの目標「育てるべき子ども像」というのがあって、そこにどう近づけていくのかということか、そのためにどういうプログラムを組み立てるのが教育のやり方です。</p> <p>学童保育や児童館などの福祉は、何か子ども像を立ててそこに進めていくというよりは、子どもの生活をいかに保障するのか、その中身をいかに豊かなものにしていくのかということをやりながら、子どもが自発的に育っていく、その道筋のところの一つの姿が出てくる訳です。教育の営みと福祉の営みを一緒にすることは出来ないだろうと思います。</p> <p>ただ、その中身としては、お互いに「地域子ども教室」の「すぎっ子クラブ」にしても、これまでの児童館・学童クラブが取り組んだことにしても、もう少し意見を出し合って議論を煮詰めてみて、共通するものはないのだろうかということと、いろいろところで同じようなことをやることも大切ですが、一緒に出来るところもたくさんありそうなので、そういうところを詰める必要があると思います。</p> <p>前回、私が申し上げましたように「教育立区」という杉並区の主張は非常に重要な一つのプランであると思います。それと同時に「養育立区」、つまり「養育をきちんとしないと子どもが育ちませんよ、そこが揺らいでいるのではないですか」ということです。もちろん保育が緊急に足りない、保育を必要としている親もそうですが、そうでなくとも親と一緒に子どもと生活していても、子どもの養育力が低下しているということがありますので、そういう点ではこうした学校での「地域子ども教室」事業等を含めて全体としてこの問題を考えないと、掲げた教育課題が抽象的なものになってしまうことの心配もあります。</p> <p>今日は、非常に中身に関わった資料が出されましたので、十分に読み込んで、先ほどご指摘いただいたように、中身を煮詰めながら、それらを支える人的資源をどう養成していくのかということを考えていかなければならないと思います。</p> <p>資料25の「小学生の居場所づくり」というテーマのところ、これまで出された意見が主な意見欄に記載されていますが、今日議論したこともだいたい重なっています。「学童クラブのあり方」というテーマについても同じです。「協働等のあり方」というテーマについては、まだ、その入口に立ったところですので、もう少しどういう中身を求めていくのかということと関わって、人材の育成あるいはNPO・民間団体の参画の可能性を考えて行きたいと思います。</p> <p>障害児の問題、中高生の問題はほとんど手付かずの状態です。中高生問題はこの後につながる問題ですので、児童館を中高生専用のものに差別化して造っていかという議論もあります。今日は資料もありませんし議論するのは無理ですが。</p> <p>年齢の下から上がっていく形で議論してきていますので、今日は小学生の居場所について議論されましたが、ここに中学生・高校生を繋ぎ、そこから見えてくることもあると思います。今日の議論も継続させながら進めていきたいと思います。</p>
<p>委 員</p>	<p>先ほどからかなり資料もいただいて、ディスカッションしました。全体としては「教育立区」構想のいろいろところを、既に児童館・学童クラブは豊かに支えていて「培われる力」や目標に向けた取組みを既に実施しているということがわかりましたので、この検討会としてはその点を一つきちんとしておきたいと思います。</p> <p>「別々」とか「何が足りない」というまとめではなくて、実は既にかなり実施していて、ただなかなか目に見える形ではなく、お互いに交流していなかったのかもしれませんけれども、そのあたりを今日出していただいた小学校の指針と子どもを持っている現場の指針と「教育立区」の分野を一度整理して、実はそれを支えていて、会長がおっしゃった「養育立区」というように、さらに踏み込んだ精神的要</p>

	素をつけ加えていくような整理が必要だと思います。
会 長	<p>「教育」あるいは「学び」を狭く捉えてしまうと、これまで培ってきた成果が非常に狭められてしまいますので、「学び」あるいは「教育」というものをもっと広く捉えていくことが課題となるでしょうし、教育だけでまとめきれないものもあると思います。前回の議論で「子どもはのんびりしたい。フラフラしたい。ホッとしたいということもあるのでないか」という意見もありましたし、学校という場で取組みがなされると、しかも集団であるということも出来ませんので、そういう時間・空間を保障するという必要だと思います。ある程度「ゆとり」をもっておかないといけません。あらゆるものを「子ども像」に結び付けていくのは窮屈になりますので、奥行き深い取組みの中で子どもが育っていくことを考えることが「教育立区」に繋がっていくと思います。</p> <p>この検討会では、児童館・学童クラブが培ってきたものを大切にしながら、もう少し先に進んで考えていければと思います。</p> <p>地域大学のあり方、その内容についてのご提案も出ておりますから。その辺もまとめの中に反映できたらと思います。</p>
委 員	<p>今日一日、お話をお伺いしながら、資料をめくりながら考えていましたけれども、やはり次の担い手、例えば「子どもの居場所」事業にしても、私たちがやっているNPO法人であったり、母親クラブであったり、全てのものに対して担い手というものがなかなか育って行かないのが現実・大きな部分だと思います。</p> <p>地域大学のお話がありましたように、皆さんの中で選択していけるというのではなくて、区の方から提示してある程度道筋を作っていただけるような形で、そこにせっかくやる気のある皆様が応募していらっしゃるのですから、是非協働して、どんどん担い手に回っていただき、また次々と皆さんの中で担い手が増えていけば、一番良い道が開けていくと思います。</p> <p>先ほどお話があったように「幼保一元化」の問題ですとか、子どもたちの放課後の居場所と児童館との違いなど、いろいろなことだと思いますが、それぞれの切り口で考えていくのではなくて、一人ひとり大切な子どもたちが育っていく場なので、会長もおっしゃっていたように「教育」の前にまずは「養育」、その基本がしっかりしていなければ、皆がいろいろなことを子どもたちに「やっていこう・こういう風に育てていって欲しい」という願いがあっても、「教育」の場には結びついていかないのかと思いました。</p>
会 長	<p>検討会のスケジュールが先送りされたというか回数が増えたおかげで、かなり中身に立ち入って議論が出来たと思います。資料もかなり用意していただいて、またご質問も無理な注文をつけたりにしているかもしれませんが、お互いに次に向かって、資料に基づいて少しこれまでの成果を確認できればと思います。</p>
5 その他	
事 務 局	<p>日程調整表を、まだお出しになられていない方は提出をお願いします。次回の26日には7・8月のスケジュールをお出ししたいと思います。</p>
6 閉会	
会 長	<p>《閉会挨拶》</p>